

2024年10月1日

公益社団法人日本語教育学会

2024年度日本語教育学会春季大会
大会若手優秀発表賞 選考結果報告

1. 選考対象者数※1

6名

2. 授賞者

(1) 口頭発表

7. 受賞者：武中清香氏（一橋大学大学院生）

4. 発表題目：YNU 書き言葉コーパスから見る補助動詞テミルの学習者の
使用傾向に関する一考察

(2) ポスター発表

7. 受賞者：夏雨佳氏（東京外国語大学大学院生）

4. 発表題目：ナラティブの反応部と後続話題から見る協働構築
－日本語母語場面・中国語母語場面・日中接触場面の比較－

※1 大会での筆頭発表者のうち、大会若手優秀発表賞表彰規程で定める「若手」に当たる者（有効期限付き学生証の写しを本会事務局に提出した者）を選考対象といたしました。

<連絡先> 公益社団法人日本語教育学会（大会担当）
〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会 2F
Email: taikai-office(アットマーク)nkg.or.jp

2024年度春季大会 大会若手優秀発表賞授賞者

大会若手優秀発表賞は、春季・秋季の各大会において発表された口頭発表・ポスター発表の発表者のうち、特に優れていると認められた若手の筆頭発表者を表彰するものです。

1. 口頭発表

(1) 授賞対象者

武中清香氏（一橋大学大学院生）

(2) 発表題目

YNU 書き言葉コーパスから見る補助動詞テミルの学習者の使用傾向に関する一考察

(3) 授賞理由

本研究は、『YNU 書き言葉コーパス』に収録されている、「学習者が産出したテミル」を分析対象としている。一文を見るだけでは誤用とは判断できないが、作文中の出現位置やタスクの内容を参照することによってはじめて不自然と判断できるような例を取りあげ、不自然さの特徴を詳細に検討している。テミルの先行研究は多くあるが、本研究は学習者の使用傾向を単なる文法性の問題ではなく、文脈（談話）を考慮した適切性の問題としてとらえており、新奇性に富んでいる点が評価された。教育への応用性をさらに高めるために、今後より明確な類型化を行っていくことが期待される。これらの理由から、大会若手優秀発表賞にふさわしいものと判断した。

2. ポスター発表

(1) 授賞対象者

夏雨佳氏（東京外国語大学大学院生）

(2) 発表題目

ナラティブの反応部と後続話題から見る協働構築
ー日本語母語場面・中国語母語場面・日中接触場面の比較ー

(3) 授賞理由

本研究では、日本語母語場面、中国語母語場面、日中接触場面における知り合い同士の二者会話の雑談に現れるナラティブに着目し、語り手と聞き手による反応部と後続話題の協働構築の特徴を丁寧に比較分析している。日中接触場面における学習者のナラティブの特徴を中国語母語場面におけるナラティブの特徴と関連付けて分析した点が高く評価された。また、収集する雑談の話題や学習者の日本語力の違いや性差などにも着目して今後分析を続けることで研究をさらに発展させることが見込まれる。聞き手にわかりやすく発表を進めようと工夫し、質問に対する対応が的確だったことも高評価につながった。これらの理由から大会若手発表賞にふさわしいものと判断した。

以上